

東大見学会に参加しました。

私はまず、一日目の午前、国際会議場という場所で、笹川平和財団やディレクトフォーエスの方々からたくさんの普段聞くことのできないようなお話を聞くことができました。最所は、笹川平和財団の田中伸男さんの講話を聞きました。主題は「国際機関をめざす諸君」というものでした。田中さんが以前、国際エネルギー機関で事務局長をやっていたときの経験についてのお話でした。このような経験をした方に会えることは滅多になく、また、そのようなお話を聞く機会など最初で最後かもしれないので、集中して聞くことができました。私が、田中さんの講演の中で印象に残ったのは、「異文化を素直に受け入れ、対応することが大切である」という言葉です。ここで例に出されたのは、IEAとOPECの対立です。IEAは、【エネルギーの番犬】と呼ばれ、エネルギー市場を安定させることを目的としているのに対して、OPECは石油を安く売って、もうけることを目的としています。IEAの仕事は、石油が足りなくなり、値段が上がると、IEAメンバー国の石油の備蓄を放出し、沈静化させるというものです。この二つの目的の異なる機関の仲を取り持つために、田中さんは、多くの対話と努力を重ねたそうです。

そして、アジアスーパーグリッド構想についてのお話もとても興味深かったです。これは、電気エネルギーパイプラインを日本からインド、さらには東南アジアなどまで広げていくという計画です。これは実際に進められている計画であり、実現すればアジアの国々で安定した電気供給を行うことができるようになります。例えば、時差や気候によるピークシフトが可能になったり、国ごとに異なる電気料金を適正な価格にできたりするそうです。日本は先進国の中でも珍しく、国内で周波数が50ヘルツと60ヘルツに分かれています。これでは供給も安定せず、効率性も悪いものとなってしまいます。まずは、自国の体勢から変えていく必要があるのではないかと感じました。

これらのお話を聞いて、世界の問題を解決しようと日々奮闘している現場の雰囲気や、少しでも感じることで、とても価値のある体験となりました。

次に、海外で働いた経験のある四人の方々と、グループディスカッションをさせていただきました。

最所に、お話を伺ったのは、石川さんです。石川さんは、三菱信託銀行に入社し、ニューヨーク、ロンドン、チューリッヒ、ロサンゼルスなどで働いたそうです。石川さんは、グローバル社会で生き抜くためには三つの大切なことがあるとおっしゃっていました。一つ目は、コミュニケーション力です。二つ目は、時代の流れを知ることです。そのためには、情報を収集し、分析することが必要です。三つ目は、夢を大事にすることです。海外での心構えを知ることができてためになりました。

次にお話を伺ったのは、酒井さんです。越川さんは、笹川平和財団で造船、海洋関連の研究をされています。明確な夢がなかった学生時代、偶然のヨットとの出会いによって、今の仕事につながるきっかけを手に入れたそうです。越川さんのように、何がきっかけで夢中になれるものが見つかるかはわからないので、常に視野を広く、いろいろなものに興味を持とうと思いました。

その次にお話を伺ったのは、越川さんです。越川さんは、三井物産のプロジェクトマネージャーとして働きました。話のテーマは「国際化は大きなチームワーク」です。チーム

をまとめるために大事なことは、しっかりとした考えを持ち発言すること、人の話を聞くことであるそうです。高校のうちから、進んで発言する勇気を身につけておかねばならないと感じました。

最後にお話を伺ったのは、林さんです。林さんは、移民や難民の方々を支援するNGOグループの発足者です。林さんは、「世界全体の平和を考える」と、おっしゃっていました。「世界のあらゆるところで起きている紛争や戦争をなくすためにはどうすればいいのか」という非常に難しい問題に取り組んでおられる林さんは、すごいと思いました。

四人の方々のすばらしい話は、外国に対して恐怖や不安しか抱いていなかった自分の考えを少し変えてくれるものとなりました。

午後になり、企業訪問を行いました。私は、将来企業などで商品の開発に携わってみたいと考えているので、革新的な技術で世界に貢献するコニカミノルタを見学させていただきました。

コニカミノルタの職場は、カード認証などがあり、とても近未来的な様子でした。お話の中で、コニカミノルタの特許取得数は国内16位とおっしゃっていて、このことからいかにコニカミノルタが革新的なアイデアで開発をしているかがわかりました。また、世界50カ国にグループ拠点があり、150カ国で販売とサービスをしているというお話から、さまざまな地域で事業開発を行う世界的な企業であることがわかりました。強く印象に残ったのは、「技術者としての働き方」についてです。商品企画や生産など開発から販売に至るまでのプロセスや、具体的な商品の開発の手順を教えてくださいました。また、商品の開発には、様々な分野の技術者が助け合っているため、自分の担当部分以外についての理解をする心構えが重要だと言うことを話していただきました。

この企業訪問を通して、今まではぼんやりとしていた将来が、実際の仕事の様子を聞くことで、現実的にとらえられるようになりました。将来のために、今、何を勉強し、何を努力するべきかを自ら考え実行していきたいです。

夜には、OBOGとの座談会がありました。一番心に残っているのは、「偏差値で行く大学を決めない」ということです。その話をしてくださったOBは、最所は、日本で最難関という理由で東大に行こうと考えていたそうです。しかし、調べていくうちに東京医科歯科大のほうが、学生が治療できる回数が多かったそうです。経験が多ければ、それだけ自信がつくし、就職にも有利です。つまり、偏差値やイメージで進路を決めるのではなく、自分がやりたいことができる環境や設備が整っている大学を選ぶということです。私は、とりあえず東北大学と考えていましたが、これから様々な大学を調べ、自分が行きたい大学を目指したいと思います。

二日目には、東大オープンキャンパスに参加しました。磁石の実験や、原子の世界、宇宙の研究などに触れることができました。どれも私たちが学校で勉強している内容よりもずっと深いところを学んでいるのだなと思います。大学に行くのが楽しみになりました。

二日間に学んだ多くのことを吸収し、将来に役立てていきたいです。